

Kaizen gPBL

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2023年08月28日 ～2023年09月05日	タイ	パンヤピワット経営大学 キングモンクット工科大学 ンブリ校	・デザイン工学科 ・学部3年生、学部1年生、学部2年生、学部4年生	(芝浦工業大学) 学生12名、教員2名 (パンヤピワット経営大学) 学生17名、教員5名、職員5名 (キングモンクット工科大学 ンブリ校) 学生10名	加藤 恭子 (デザイン工学科) 田邊 匡生 (デザイン工学科)



宿泊先ロビーにて(初日)

本プログラムは、タイのローカル工場の生産システムの Kaizen 案を発表することが目的です。現地で Kaizen に関する授業を受けた後、工場の現場を見学し Kaizen ポイントを探します。課題を持ち帰って議論し、試作品(施策アイデア)を作り上げた後に再び工場に向かい、試作品(アイデア)を可能な限り試します。そして磨き上げた Kaizen 案を最終日に発表し、参加大学の教員の評価で1位～3位を決めました。今年度は本プログラムの受け入れ先であるPanyapiwat Institute of Management (PIM)の17名の学生さん、当方デザイン工学部の1～4年生12名に加え、泰日工業大学(TNI)の学生さんも10名加わり、総勢39名が参加しました。

今年で開催が5度目となる本プログラム、今年度は初日を終日チームビルディングのワークやプログラムに費やしました(詳細は後述)。SITの学生主導のプログラム3つ、加藤主導のワーク2つを実施しましたが、先方PIMのChampoo先生が素晴らしいファシリテーション力で支えてくださったこともあり、初日で既に強い絆が出来上がったように見えました。正味9日間の中で、グループ・ワークに費やす時間が非常に多いプログラムであるため、議論が白熱してくるとどうしても母国語での会話になってしまうことがありました。それでもチームワークが強かったため、全員が「伝えたい」という気持ちを途切れさせることなく議論に臨むことができたように思います。受け入れ先のPIMの学生さんは、SITの学生が滞在するホテルの近くの寮に滞在してくれ、学生の面倒を一から十まで(文字通り一から十まで)見てくれました。彼らのサポートのおかげで、SITの学生は日本人だけでは決して味わえない経験を多く積めた様に思います。最終日にプログラムが終了しても、いつまでもいつまでも離れることなく話し、メッセージカードを交換し、輪になったり歌を歌ったり、写真を撮ったり…別れ際にはみな顔が涙で濡れていました。しみりしてしまったSIT学生が空港に到着すると、何と先回りして待っていた10人以上のタイの学生さんが…。結局搭乗時間ギリギリまで空港での時間を楽しんだようです。日泰双方の学生さんとも、いわゆる「コロナ世代」の学生さんです。11日間、文字通り全身を使って仲間と交流することが出来たという事実は、プログラムの内容や出来栄よりも数倍大切な経験だったのではないかと考えています。また、1年生から4年生まで、系も異なる学生さん12名が参加したことで、学部・年の縦の絆が強まったという声も多く聞きました。そんな機会を提供できたことを、企画者としてとても誇りに思っています。今年度からは一緒にサポートして下さる先生(田邊先生)が仲間に入ってください、今後の展開についてもアドバイスを頂きました。来年もこのような機会が提供出来たらと思っています。



LEGOでタワーづくり1



SIT学生考案のゲームで交流



工場で熱心にヒアリング



提案の発表1



提案の発表2



タイ学生さんのサプライズ見送り